

かつの版CCRCの可能性について ～元気な中高年齢者の移住で地域を活性化～

平成29年3月
鹿角市政策研究所



1. かつの版CCRCのねらい

地方への
移住を促進

東京圏

- ①高齢者人口が今後も増加する推計
- ②元気な高齢者のセカンドライフの多様化
- ③高齢者の増加に伴う医療・介護サービスの不足の懸念
- ④地方への移住希望者の増加、U・Iターンの活発化(50代男性の半数が移住に前向き)

人口増加、産業の
活性化を目指す

鹿角市

- ①2020年頃をピークに高齢者数の減少
- ②人口減少、高齢化による地域コミュニティの弱体化、産業の衰退
- ③長年かけて整備してきた医療・介護サービスや雇用の余剰の懸念
- ④若い世代を中心とした移住者が増加傾向

移住の機運
の高まり

鹿角をPRLし、
呼び込めないか

2. かづの版CCRCの方法

(1)「まちなか」CCRC(花輪)

①買い物や病院の利便性といった都市機能の享受



まちなか居住の推進

②空き家や空き店舗の活用



移住しやすい環境づくり、景観の改善

③診療所や地域包括支援センター、介護施設等が
徒歩圏内



地域包括ケアシステムの構築の推進

④コモッセや福祉プラザ、高齢者サロン等が徒歩圏内



芸術・文化、生涯学習、生きがいづくりへの参加



自家用車を持たない高齢者にとっても
暮らしやすいCCRC

2. かつの版CCRCの方法 (1)「まちなか」CCRC(花輪)

①買い物や病院の利便性といった都市機能の享受



駅から約600mの徒歩圏内
で買い物や通院などの
都市機能の享受

JR花輪線・花輪駅を起点
とした交通アクセス(市内
のほか、大館、盛岡)

地域包括支援センターや
福祉プラザのほか、診療
所や高齢者施設による包
括的なケア

コモッセや高齢者サロン、
定期市場などの交流拠点

法テラスがあることも、花
輪の特徴のひとつ

移住や住み替えに適して
いるため、まちなか居住が
推進できる

2. かつの版CCRCの方法 (1)「まちなか」CCRC(花輪)

②空き家や空き店舗の活用



- 空**:レベル1 管理されている
- 空**:レベル2 管理がやや不十分
- 空**:レベル3 管理が不十分であり、相当の補修が必要
- 空**:レベル4 管理されていない

件数	用途					レベル(良⇒悪)			
	住宅	店舗兼住宅	店舗	貸家・アパート	その他	1	2	3	4
52	35	6	3	2	6	4	36	8	4

※平成28年12月時点 市市民共動課調べ

レベル1・2が圧倒的に多い



かつの「田舎のねじろ」(空き家バンク)による移住支援を実施しているが...

まちなかの登録物件は0件



一人暮らし高齢者数は右肩上がりで推移する推計

→空き家予備群となる可能性

空き家があっても活用されなければ意味がない

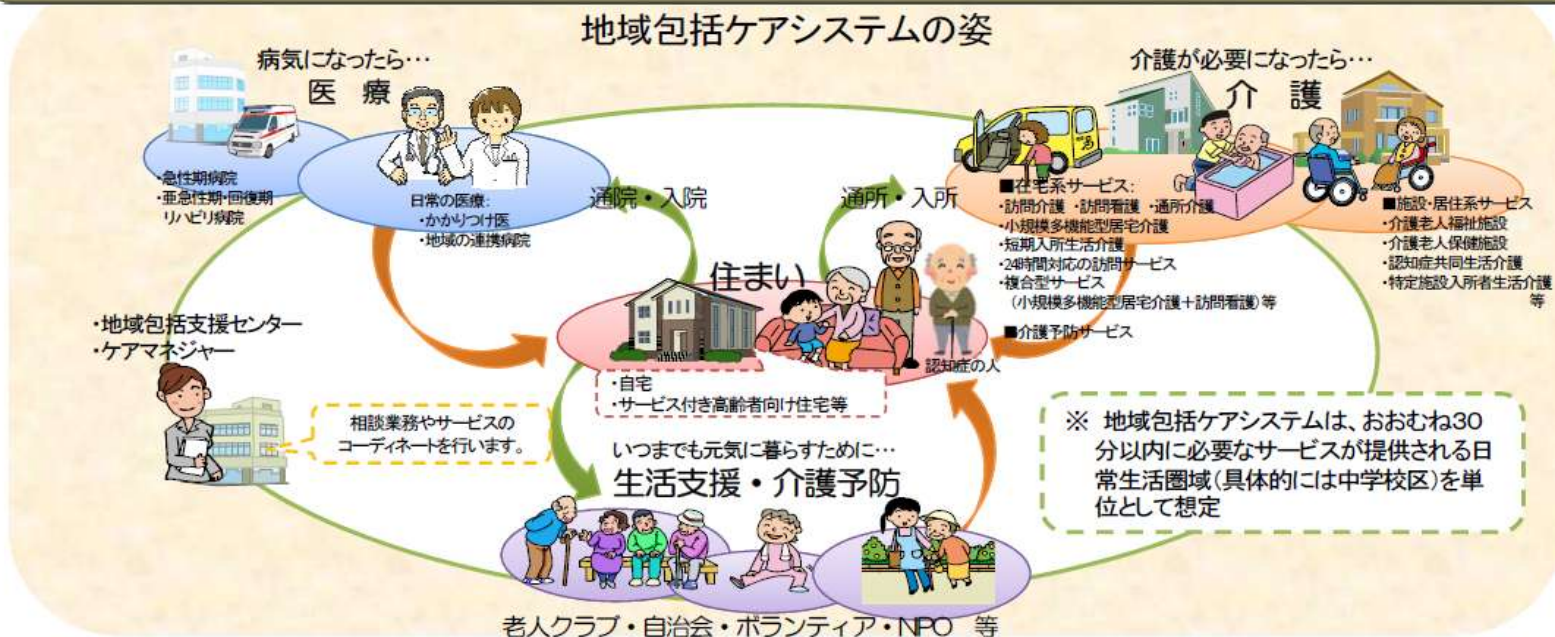
空き家の活用、リノベーションを推進し、移住しやすい環境づくり

2. かつの版CCRCの方法 (1)「まちなか」CCRC(花輪)

③診療所や地域包括支援センター、介護施設等が徒歩圏内

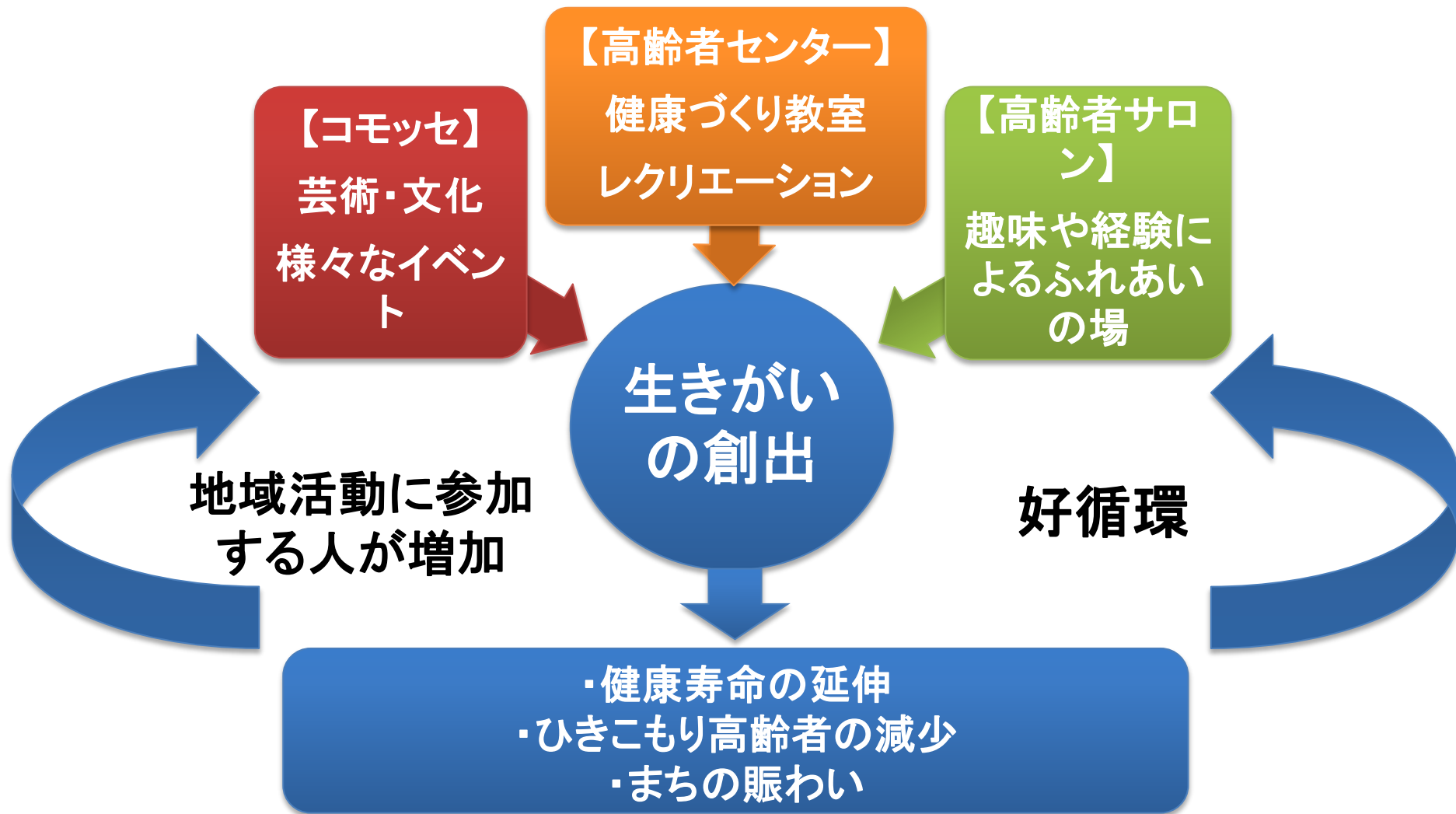
地域包括ケアシステム

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現**していきます。
 - 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
 - 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差**が生じています。
- 地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要**です。



2. かつの版CCRCの方法 (1)「まちなか」CCRC(花輪)

④コモッセや福祉プラザ、高齢者サロン等が徒歩圏内

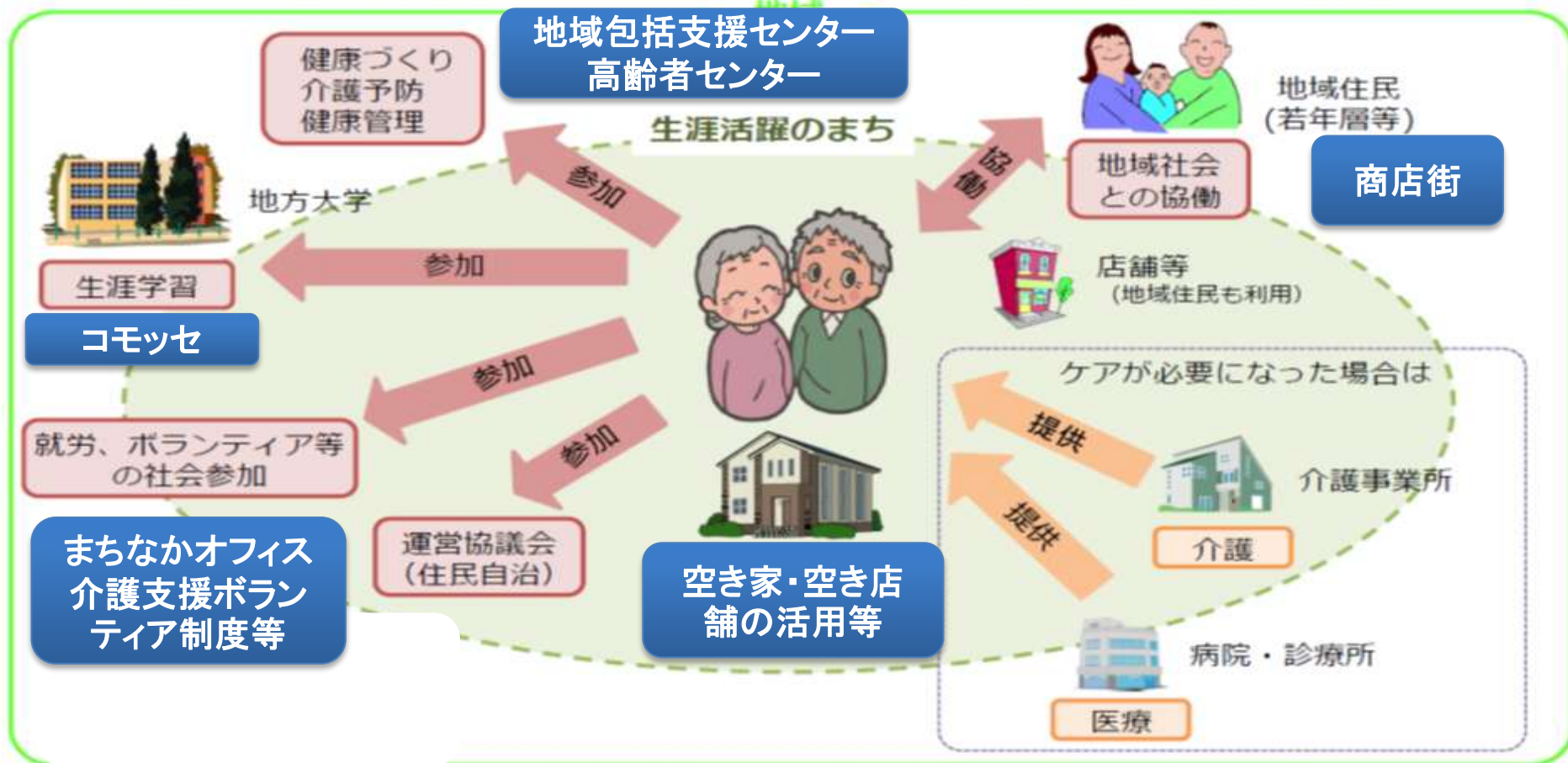


移住してきた高齢者が参画することで、さらに効果大

2. かつの版CCRCの方法 (1)「まちなか」CCRC(花輪)

「まちなか」CCRC(花輪)の生活イメージ

- ①健康でアクティブな生活の実現と継続的ケアの提供、②自立した生活ができる居住環境の提供、③入居者の参画の下、透明性が高く安定した事業運営によるコミュニティの形成を一体的に実現。



※事業の透明性・安定性の確保の方策：入居者の参画、情報公開、事業の継続性確保等

2. かつの版CCRCの方法

(2)「保養地型」CCRC(大湯)

①温泉等の地域資源の活用

➡ 共同浴場等の温泉、滝めぐり等の保養コンテンツ

②「湯都里」と「湯の駅おおゆ(仮称)」といった新たな拠点施設の整備

➡ 生涯学習や健康づくり、多世代の交流の創出

③エリア内に病院や介護施設の集中

➡ 地域包括ケアの構築の推進、医療・介護との連携

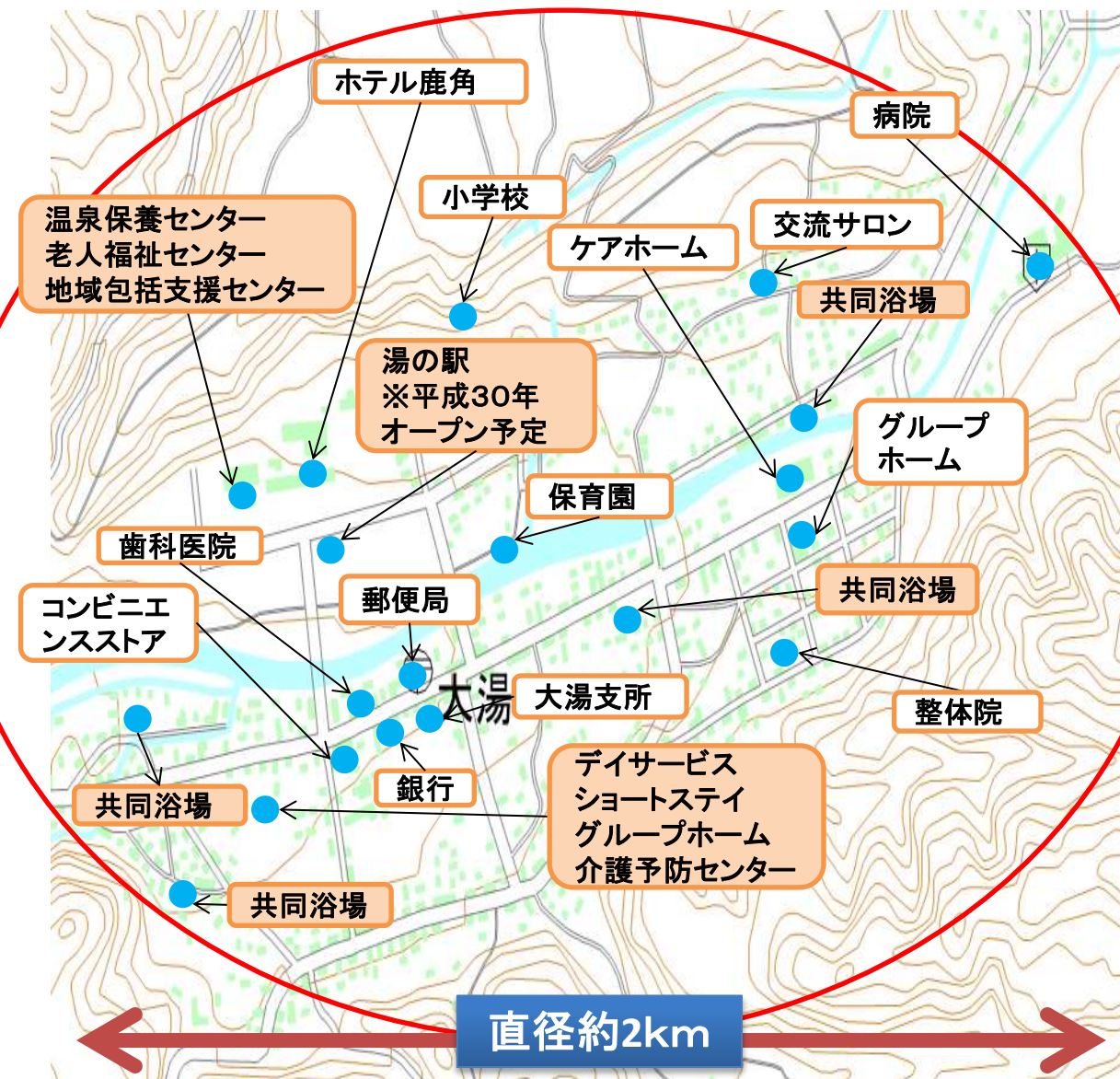
④空き家や空き店舗の活用

➡ 移住しやすい環境づくり、景観の改善

鹿角らしい「癒し」を享受できるCCRC

2. かつの版CCRCの方法 (2)「保養地型」CCRC(大湯)

①温泉等の地域資源の活用



4か所の共同浴場や温泉施設が点在している

病院、介護施設で温泉を活用したりリハビリテーションなどの湯治を積極的に行っている

温泉保養センター「湯都里」では地域包括ケアや高齢者の生涯学習・健康づくりと入浴機能の一体化

湯の駅オープンに伴う地域の活性化、多世代交流の創出

温泉を活用した鹿角らしい「癒し」を享受できるため、移住に適している

2. かつの版CCRCの方法 (2)「保養地型」CCRC(大湯)

②「湯都里」と「湯の駅おおゆ(仮称)」といった新たな拠点施設の整備

○温泉保養センター「湯都里」(平成29年4月1日オープン)

旧ゆとりランドの持つ日帰り入浴施設の機能を継続しつつ、高齢者の介護相談等の窓口となる包括支援センターと高齢者の健康、生きがいづくりを行う老人福祉センターの機能が集約した施設としてリニューアル

○「湯の駅おおゆ」(平成30年オープン予定)

温泉を活用した観光施設であり、豊かな自然による公園やキャンプ、農業体験ができるスペースの整備



大湯地区に新しい人の流れが生まれる

この機運を利用した多世代交流や高齢者の活躍の場の創出といった、新しい可能性を秘めている

2. かつの版CCRCの方法 (2)「保養地型」CCRC(大湯)

③エリア内に病院や介護施設が集中

○医療・介護サービスを享受しやすい環境にあり、「保養地型」CCRCの推進することにより、「まちなか」CCRC(花輪)のケースと同様、地域包括ケアシステムの構築にもつながることが期待される

○大湯地区は、医療・介護の仕事に従事している方が多い地区であり、今後、高齢者の減少により医療・介護サービスのニーズの低下が懸念されている

⇒雇用の維持・確保の観点からも、医療・介護と連携しながら、大湯地区でCCRCを推進する必要がある

2. かつの版CCRCの方法 (2)「保養地型」CCRC(大湯)

④空き家や空き店舗の活用



件数	用途					レベル(良1⇒悪4)				
	住宅	店舗兼住宅	店舗	貸家・アパート	その他	1	2	3	4	不明
73	65	6	0	0	2	3	37	21	7	5

- 空 :レベル1 管理されている
- 空 :レベル2 管理がやや不十分
- 空 :レベル3 管理が不十分であり、相当の補修が必要
- 空 :レベル4 管理されていない

※平成28年12月時点 市市民共動課調べ

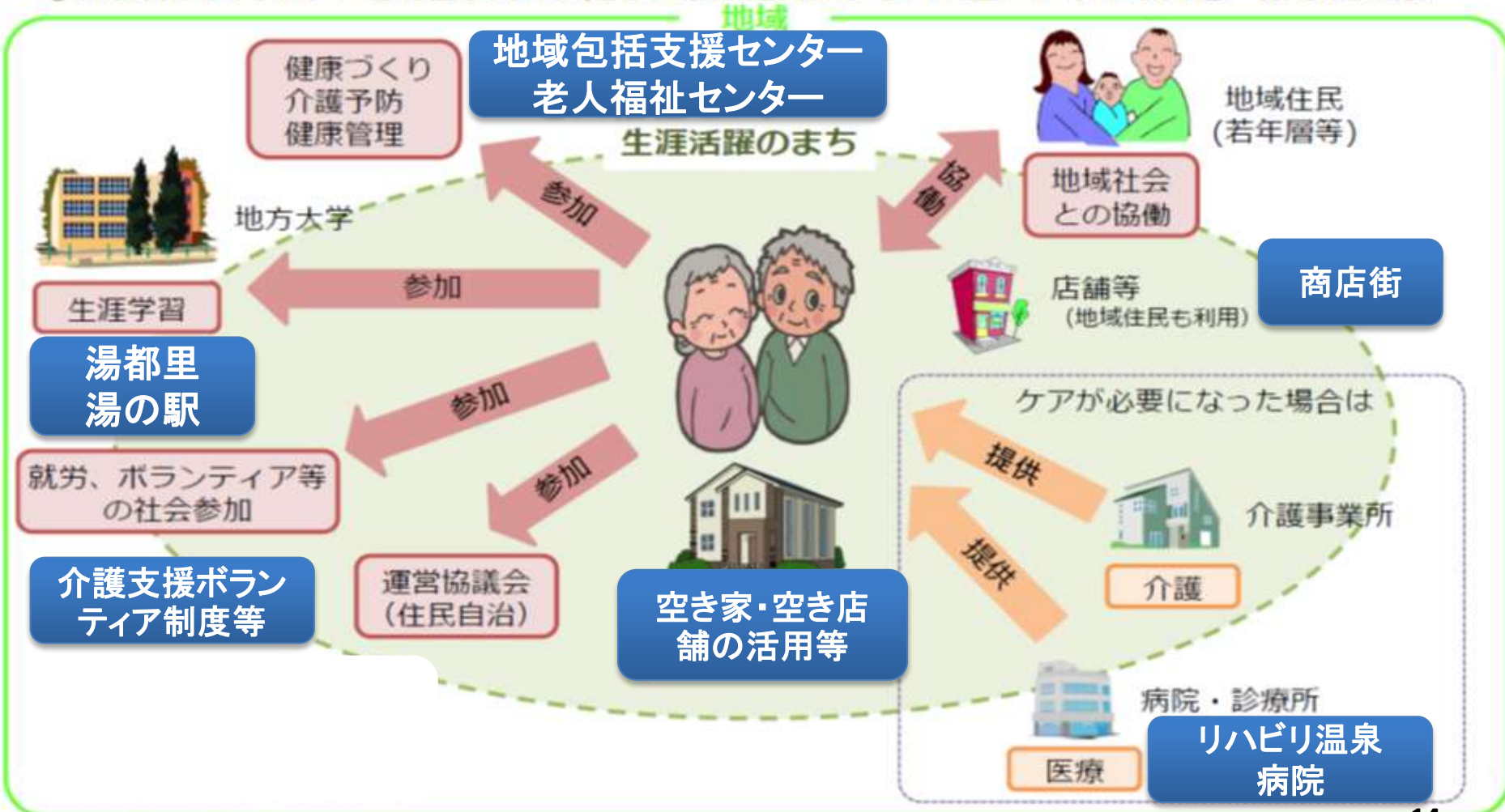
レベル
1・2を
活用

移住や起業促進のため、空き家の活用、リノベーションがしやすい環境づくりが必要

2. かつの版CCRCの方法 (2)「保養地型」CCRC(大湯)

「保養地型」CCRC(大湯)の生活イメージ

- ①健康でアクティブな生活の実現と継続的ケアの提供、②自立した生活ができる居住環境の提供、③入居者の参画の下、透明性が高く安定した事業運営によるコミュニティの形成を一体的に実現。



※事業の透明性・安定性の確保の方策：入居者の参画、情報公開、事業の継続性確保等

2. かつの版CCRCの方法

(3) かつの版CCRCの課題

「まちなか」CCRC(花輪)

まちなかへの住み替え支援の方法

「保養地型」CCRC(大湯)

買い物等の利便性の向上

共通

- ①中高年齢者が少人数移住してくるだけでは、地域活動や経済の活性化という効果が薄いのではないか
- ②精神科や泌尿器科の医師不足、三次医療機関まで距離がある
- ③介護サービスや人材の確保ができるのか
- ④大学等の高等教育機関と連携した生涯学習の機会の提供



様々な事業に関連する課題が想定されるため、
CCRCをコンセプトとした事業間の連携により、
包括的に取り組む必要があるのではないか

3. かづの版CCRCの方向性と課題に対する取組の考察

(1) 方向性の考察

- それぞれが持つ機能を活かすことで中高年齢者の移住を推進し受け入れることは可能である
- 解決しなければ移住ができないという課題があるわけではない（それはどの世代の移住に対しても同じ）
- いきなりアクティブシニアを受け入れようとしても、移住する側にも受け入れる地域住民側にも準備が足りない

⇒かづの版CCRCを推進するための課題に取り組みながら、元気な中高年齢者の移住実績を積み上げていく

⇒かづの版CCRCを推進することで、若者だけでなく高齢者にも暮らしやすいまち、などのPRにもつながる

方向性

CCRCをコンセプトのひとつとして、既存事業や団体との連携・拡充によって実績をつくる



目標

高齢者にも暮らしやすいまちというイメージを醸成し、どの世代でも移住が促進する

3. かつの版CCRCの方向性と課題に対する取組の考察

(2) 課題に対する取り組みの考察

①CCRCごとの課題

	「まちなか」CCRC	「保養地型」CCRC
課題	まちなかへの住み替え支援の方法	買い物等の利便性の向上
状況	・国においては、高齢者の住み替えのため、高齢者が現在の持ち家などの居住用資産の資金化について、金融機関、不動産、リノベーション事業者等の民間と連携した支援を検討 ・一方、本市においては、土地需要の低さから、不動産の資金化が難しい。実際、まちなかへの住み替えの意向を持つ方が、その希望を実現できない理由として、「経済的な理由」が6割を超えている(H28市民アンケート)	・近隣のスーパーまで距離があるなどの買い物等の公共交通が不便である
取組	・地方都市での事例がないため、鹿角らしい別のアプローチを実現する	・有償運送サービスの検討 ＜事例＞コールサービス孫の手(NPO法人) ・移動販売や宅配サービスの検討 ・移住者のマイカー取得を支援(平成29年度からマイカー購入費用を含む移住者向けローンへの利子助成を開始予定)

3. かつの版CCRCの方向性と課題に対する取組の考察

(2) 課題に対する取り組みの考察

② 共通の課題

課題	高齢者が少人数移住してくるだけでは、地域活動や経済の活性化という効果が薄いのではないか	精神科や泌尿器科の医師不足、三次医療機関まで距離がある	介護サービスや人材の確保ができるのか	大学等の高等教育機関と連携した生涯学習の機会の提供
状況	・全国の事例を見ると100人規模の移住の想定が多く、100人分の単身高齢者支出では年間1.8億円程度の消費喚起効果。 ・経済効果のほか、地域に溶け込めず孤立するのではないかな。	・精神科、泌尿器科を市内で受診できない ・高度な医療(三次医療)は盛岡市、秋田市等まで行かなければならない。	・介護職員の求人を行っても、申し込みがなかなか無い状態であり、介護サービス充実のためのリハビリ専門職、看護師が不足している。	・日本版CCRCでは、大学等との連携により、知的好奇心を満たす取組や多世代の交流の場の創出につなげることが重視されているが、大学等の高等教育機関の立地がない。
取組	・移住支援団体(NPO法人かつのclassy)と連携し、移住者目線で地域に参加しやすい環境づくり、地域活動へのマッチング ・移住・定住事業の対象をこれまでの40代までから60代まで拡大(例:中高年齢者向けのお試しツアー、大湯の「癒し」をテーマにした移住PR) ・本市に必要な人物像(職業や経歴)を提示したPR →少人数から初めて結果的に100人規模になることを目指す。	・医師確保対策支援 ・24時間電話相談受付窓口の設置 ・生活支援コーディネーターの配置 ・シルバーリハビリ体操指導士の養成	・既に行っている事業(介護人材確保推進事業)だけでなく、介護支援ボランティア制度を活用し、高齢者が高齢者を支える互助の取組も構築していくことが必要	・鹿角GENKIカレッジ(高校生から青年層が対象) ・希望するライフスタイル(何を重視するか)に応じた就労・ボランティアのメニュー化

3. かつの版CCRCの方向性と課題に対する取組の考察

(3) かつの版CCRCをさらに推進するための施策案

○ホテルの空き部屋を活用した別荘型2地域居住

- ⇒ホテルの空き部屋を別荘に見立てた温泉や森林セラピーなどの保養コンテンツを提供
- ⇒ホテルでは、年平均の客室稼働率は5～6割であり、一部を長期滞在用に提供することは可能であるとのこと
- ⇒ホテルの料金形態は、会費制をイメージ
- ⇒大湯限定のお試し居住として活用できることや田舎を持つ人が少ない葛飾区からの呼び込み、かつの有料観光ファンとの連携
- ⇒利用者に消費動向等のアンケート調査を行い、移住の経済波及効果の算出など

(4) 研究の総括

- ・ 「まちなか」CCRCと「保養地型」には、CCRCの機能が備わっており、推進することは可能であることがわかった
- ・ 洗い出した課題は、定住対策の分野が多く、まちづくりの様々な分野と関連する
- ・ CCRCのコンセプトのもと、事業や様々な団体と連携・拡充をすることで、かつの版CCRCを実現していくという方向性を示すことができた